

1. 社会・治安情勢

- (1) リオデジャネイロ州全域でけん銃や小銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。

2008年以降、積極的なUPP（州軍警察平和構築部隊）の設置などにより改善しつつあったリオの治安は、2013年頃より伯経済の低迷などを背景として、再び悪化の一途を辿っており、特に2016年以降、リオ州の財政破綻によって警察当局が治安対策のために必要な人的・物的対策を十分に整備することが困難となったこともあり、オリンピック・パラリンピックが終了した一昨年後半から急激に体感治安が悪化している。

- (2) 依然として貧困層の少年らによる「アハスタオン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部や海岸、幹線道路沿いで発生しており、治安当局もこれらの取締りを強化しているが、健全育成の方針を主眼とした少年法の影響により、逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまうなど、警察による取締りが治安改善に直結していない現状にある。

- (3) 現状、リオデジャネイロ市内及びその周辺に約1,000か所存在するといわれるファベラ（スラム街）を中心に敵対する麻薬密売組織間における抗争が激化するとともに、UPPをはじめとした治安当局と麻薬密売組織間における銃撃戦が頻発しており、流れ弾による一般市民の被害が後を絶たない。

さらに、幹線道路等においては、積荷を積載した車両を襲撃し、車両ごと強取する積荷強盗が多発しており、喫緊の課題となっている。

- (4) これら課題に対処するため、連邦政府による国家治安計画に基づき、昨年7月28日から総計10,240名から成る国軍兵士や国家治安軍、連邦道路警察官等がリオ州内へ投入され、薬物銃器・積荷強盗対策に従事するも、その根絶には至らず、本年2月16日以降、大統領令による連邦政府主導の治安対策が試みられているが、具体的成果には結びついていない。

- (5) リオ州政府としても、連邦政府主導の下、治安を担当する公安局が中心となり、治安回復に取り組んではいるものの、州の財政難による新規採用警察官の見送りや装備・資器材の故障、殉職・離職警察官の増加、組織的な汚職警察官の摘発等により警察力が低下する一方、凶悪犯罪は増加しており、犯罪の増加に歯止めを掛けられない状況にある。

- (6) また、長引く不況を背景として、リオ市内におけるホームレスの数も数年前と比較して激増しており、麻薬中毒者が町中を徘徊するなど、こうした状況が体感治安の悪化に拍車を掛けている一つの要因とも言える。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) リオ州公安局統計院（ISP）によれば、2017年のリオ市内における殺人事

件発生件数は1,487件で、前年と比べて157件（約11.8%）増加している。
 また、強盗事件発生件数は12万3,142件で、前年と比べて2万128件（約19.5%）増加しており、とりわけ車両強盗や携帯電話強盗の増加が著しい。

- (2) 2017年のリオ市人口10万人当たりの犯罪発生率を日本と比較した場合、殺人事件が約32倍（2014年は23倍）、強盗事件が約1,300倍（2014年は510倍）と極めて高い比率で推移している。
- (3) 麻薬密売組織間における抗争を背景として、ファベラ周辺の治安が急激に悪化しており、注意が必要である。
- (4) 3月14日発生の人権分野等で活発に活動していたマリエリ・フランコ市議（Marielle Franco）（黒人女性）に対する殺人事件に関し、伯全土において追悼デモやミサが行われる中、計画的な組織的殺人と特定し得る状況証拠は積み重ねられつつあるものの、依然被疑者の特定には至らず、犯行動機や犯行目的等は不明のままである。

3. リオ州犯罪発生状況 2018年1月（前年同月比増減数）

| | リオ州 | リオ市 |
|---------|------------------|-----------------|
| 殺人 | 469 (-10) | 133 (+11) |
| 強制性交等 | 409 (±0) | 135 (-19) |
| 商業施設強盗 | 596 (+262) | 306 (+141) |
| 住居侵入強盗 | 108 (+27) | 32 (+3) |
| 車両強盗 | 5,286 (+1,080) | 2,666 (+688) |
| 路上強盗 | 7,829 (+2,696) | 4,110 (+1,355) |
| 交通機関内強盗 | 1,070 (+242) | 571 (+154) |
| 携帯電話強盗 | 2,053 (+916) | 1,120 (+535) |
| 強盗総数 | 20,939 (+6,718) | 11,203 (+3,955) |
| 窃盗総数 | 13,173 (+3,099) | 7,604 (+1,700) |
| 取扱件数 | 67,685 (+16,295) | 33,838 (+8,733) |

4. リオ市南部犯罪発生状況 2018年1月（前年同月比増減数）

【フラメンゴ・ボタフォゴ地区】

| | |
|---------|------------|
| 殺人 | 0 (-1) |
| 商業施設強盗 | 26 (+8) |
| 住居侵入強盗 | 1 (-1) |
| 車両強盗 | 62 (+41) |
| 路上強盗 | 157 (+60) |
| 交通機関内強盗 | 19 (+12) |
| 携帯電話強盗 | 45 (+16) |
| 強盗総数 | 362 (+165) |

| | |
|------|--------------|
| 窃盗総数 | 489 (+176) |
| 取扱件数 | 1,455 (+470) |

【コパカバーナ地区】

| | |
|---------|--------------|
| 殺人 | 1 (-2) |
| 商業施設強盗 | 11 (+5) |
| 住居侵入強盗 | 3 (+2) |
| 車両強盗 | 0 (-2) |
| 路上強盗 | 107 (+42) |
| 交通機関内強盗 | 9 (+3) |
| 携帯電話強盗 | 33 (+1) |
| 強盗総数 | 237 (+56) |
| 窃盗総数 | 1,151 (+394) |
| 取扱件数 | 2,022 (+619) |

【イパネマ・レブロン地区】

| | |
|---------|--------------|
| 殺人 | 6 (+5) |
| 商業施設強盗 | 1 (±0) |
| 住居侵入強盗 | 0 (-3) |
| 車両強盗 | 9 (+2) |
| 路上強盗 | 89 (+25) |
| 交通機関内強盗 | 6 (+2) |
| 携帯電話強盗 | 28 (+14) |
| 強盗総数 | 159 (+38) |
| 窃盗総数 | 596 (+149) |
| 取扱件数 | 1,397 (+431) |

5. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

（1）ボタフォゴ地区のスーパーマーケット等における武装強盗事件の発生

1月4日（木）夕刻、リオ市ボタフォゴ地区パッサージェン通り所在のスーパーマーケット『ロージャス・アメリカナス』及び同区パステール大通り所在の『郵便局』において、銃器武装集団による連続強盗事件が発生、強盗犯らは車両にて現場から逃走した。逃走途次、強盗犯らは、リオ市フラメンゴ地区カテチ通り及びドイス・デ・デゼンブロ通りの交差点付近、並びに同区バロン・ド・フラメンゴ通りにおいて、追跡中の警察官らとの間で激しい銃撃戦を行った末（バロン・ド・フラメンゴ通りにおいて自家製手榴弾を投擲）、カテチ地区で車を乗り捨て、サント・アマー口の丘方面へ逃走。これら銃撃戦により、付近の歯科診療所や現場付近を走行して

いた車両、ホテル、新聞販売スタンド等が被弾した。

(2) イパネマ地区の携帯電話販売店における銃撃戦の発生

1月13日(土)午後0時30分頃、リオ市イパネマ地区ヴィスコンデ・デ・ピラジャー通り付近の携帯電話販売店に4人組の強盗犯が押し入り、同店警備員(非番の軍警察官)との間で銃撃戦が発生、警備員が足に被弾して負傷したほか、商業施設からは少なくとも3発の銃痕が発見された。強盗犯らは携帯電話等を強取(被害総額1万レアル相当)し、バイクにて逃走。

(3) ホッシーニャ・スラム街における銃撃戦の発生

1月25日早朝、ホッシーニャ・スラム街(Rocinha)において、リオ州軍警察特殊部隊等が犯罪組織の掃討作戦を開始、同作戦により、軍警察官4名、住人1名、犯罪組織構成員1名が負傷し、同構成員4名が逮捕された。同作戦中、シェラトンホテル近くのニーマイヤー大通り(Av. Niemeyer)において、バス1台が放火され炎上した。

(4) シダージ・デ・デウス(スラム街)における銃撃戦の発生

2月1日早朝、リオ市西部シダージ・デ・デウス地区(Cidade de Deus)において、治安当局及び麻薬密売組織間における銃撃戦が発生し、付近を走る自動車専用道路『リーニャ・アマレーラ(Linha Amarela)』が断続的な通行止めに陥った。

(5) イパネマ地区におけるアパート対象の集団強盗事件の発生

2月6日早朝、リオ市イパネマ地区『バラオン・ダ・トッレ通り(Rua Barao da Torre)』沿いのアパートに対し、4人組の武装集団が侵入、門番や居住者を次々に緊縛して監禁した上、貴金属や現金、携帯電話などを強取した。

(6) フラメンゴ地区のバーにおける武装強盗事件の発生

3月1日(木)午前1時30分頃、リオ市フラメンゴ地区のバー『Belmonte』(Praia do Flamengo 300)に対し、けん銃武装の三人組が押し入り、飲食客らを軟禁した上、同店売上金や飲食客らの所持品などを強取、所持品の提出を拒んだ飲食客の1名が暴行を受けて負傷した。

(7) ラランジェイラス地区『サン・サルバドール広場』における殺人事件の発生

3月7日(水)午後11時頃、リオ市ラランジェイラス地区の『サン・サルバドール広場(Praça São Salvador)』において、車両に乗車した銃器武装の犯人が同広場の方向に向けて十数発の銃弾を発砲し、周辺の路上にいた1名が頭部に銃弾を受けて死亡、もう1名も銃弾を受けた上、犯人らの車両に礫過されて死亡した。このほか、同公園前のタクシー乗り場で待機中のタクシー運転手も銃弾を受けて負傷した模様。事件当時、現場周辺には多数の家族連れや飲食客がおり大混乱に陥った。

(8) ボタフォゴ地区のショッピングセンターにおける武装強盗事件の発生

3月26日（月）午後8時頃、リオ市ポタフォゴ地区プライア・デ・ポタフォゴ通りの『ポタフォゴ・ショッピングセンター』内にある宝石店に対し、けん銃を所持した4人組が押し入り、計3発を発砲して店員等を脅して逃走（負傷者なし）。

(9) レブロン地区のスーパーマーケットにおける武装強盗事件の発生

3月28日（水）午前10時過ぎ頃、リオ市レブロン地区ジェネラル・ウルキザ通りのスーパーマーケット『ロージャス・アメリカナス』において強盗事件が発生し、市内幹線道路の一つである『ズズ・アンジェル・トンネル』が11時5分から4分間封鎖された（巡回中の警察官が本件被疑者2名を逮捕）。

(10) 3月28日（水）正午過ぎ頃、リオ市イパネマ地区ヴィスコンデ・デ・ピラジャー通り付近にあるスーパーマーケット『ロージャス・アメリカナス』において強盗事件が発生し、被疑者らは逃走した。

6. 邦人被害

(1) 窃盗事件

2月2日（金）午前4時半頃、リオ市グロリア地区ベンジャミン通り（Rua Benjamim）において、邦人女性観光客1名が自身の宿泊所前において、スマートフォン（iPhone）を手にしていたところ、前方から接近してきたバイク乗車の二人組（男性、20代位）に所携のスマートフォン及び旅券等在中のショルダー・バッグ1個を窃取された。

(2) 窃盗事件

2月11日（日）午前3時頃、リオ市イパネマ地区プルデンチ・デ・モラエス通り（Rua Prudente de Moraes）の宿泊先玄関前において、邦人女性観光客が玄関扉の解錠を待っていたところ、4人組の男性がいきなり眼前に現れ、女性が肩から掛けていた携帯電話やクレジットカード等在中のショルダーバッグ1個を窃取した。

(3) 窃盗事件

2月12日（月）午後11時頃、リオ市セントロ地区サンバ会場周辺（Rua Marquês de Sapucaí）において、邦人女性観光客が自身の所持品をバス内に置いたまま同所を離れたところ、何者かが同女性所有の携帯電話1台（iPhone）を窃取した。

(4) 強盗事件

2月16日（金）午後7時30分頃、リオ市セントロ地区インプレッサ通り（Rua da Imprensa）において、邦人女性観光客が観光していたところ、男性1名が眼前に現れ、同女性に刃物を突きつけて脅した上、携行していた携帯電話（iPhone）等在中のリュックサック1個を強取した。

(5) 窃盗事件

2月24日（土）午後10時頃、リオ市コパカバーナ地区アトランチカ大通り（Av. Atlântica）において、邦人男性観光客が観光していたところ、何者かが同男性に近寄り、携行していた携帯電話1台（iPhone）を窃取した。

（6） 窃盗事件

3月11日（日）午後6時頃、邦人男性旅行者は、友人男性2名と共に、イグアス発リオ行の長距離バス（Expresso Nordeste）に乗車して仮眠、翌12日午前9時頃、サンパウロ州パルジーニョ市所在のサービスエリアにて目を覚ましたところ、自身の席の下に保管しておいた自己所有の旅券、カード類等在中のリュックサック1個がないことに気づき、本件被害を認知した。

7. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

8. 誘拐・恐喝事件発生状況

邦人被害は認知していない。

2018年1月から2月までの間、リオ州内で短時間誘拐17件（2月中9件）、恐喝228件（2月中107件）が発生しており、いずれも高い水準で推移している。